

オガサワライラガ

Belippa boninensis

チョウ目(鱗翅目)
イラガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 35mm 内外。前翅地色は、個体変異があり、焦げ茶色から黒味の強いものである。外横線の外側は広く白色を呈する個体もある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3～9月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林が生息に必要と考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



(執筆: 岸田泰則)

コシロテンマドガ

Banisia whalleyi

チョウ目(鱗翅目)
マドガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 14mm 内外。 *B. plagiata* に似るがやや小型で、前翅の透明紋を欠くことで区別できる。夏に採集される個体は、春に採集される個体より赤味が強い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

1～9月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林が生息に必要と考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 岸田泰則)

ヒトテンツトガ

Calamotropha albistrigellus

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 22～28mm。前翅は一様に灰褐色で、前縁は濃色。中室端に小黒点を有する。後翅は淡色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3、6、8、9月に採集されている。草地環境でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラツトガ

Crambus boninellus

チョウ目（鱗翅目）
ツトガ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

開張 21～25mm。前翅の地色は灰褐色。中央に細い、縦の白条を有する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3～10月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



(執筆: 岸田泰則)

クマタミズメイガ

Musotima kumatai

チョウ目（鱗翅目）
ツトガ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

開張 12mm。両翅の地色は黄褐色で、斑紋は銀白色。大陸や本土に分布しているウスキミズメイガ *M. colonialis* に似るが、やや小型であること、前翅外縁の湾曲が弱いことで区別できる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

11月に採集されている。湿地に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

水辺の湿地環境を好む種である。河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



©SEHU, Hokkaido Univ.

(執筆: 岸田泰則)

モトキムラサキノメイガ

Agrotera flavobasalis

チョウ目（鱗翅目）
ツトガ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

開張 22～25mm。前翅は、紫色を帯びた茶灰色。基部は、♂では黄色を呈するが、♀では茶灰色。後翅は暗色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

5～9月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



©SEHU, Hokkaido Univ.

(執筆: 岸田泰則)

オガサワラシロモンクロノメイガ

Bocchoris albipunctalis

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 20～22mm。東南アジア、オーストラリア、アフリカ本土に生息するシロモンノメイガ *B. inspersalis* に酷似するが、やや大型。地色は黒色で、白色点をちりばめる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

6～8月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.

(執筆者: 岸田泰則)



ヒメシロマダラノメイガ

Glyphodes fenestratus

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 13～15mm。前翅の各横線は茶色を帯びる。大きな白紋をいくつか有する。後翅は白色で、茶色を帯びた内、外横線を有する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

4～10月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.

(執筆者: 岸田泰則)



ハイイロノメイガ

Metasia bilineatella

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 13～14mm。前翅はやや細い。地色は灰色で、内、外横線は茶色を帯びた黒色。ポリネシアから記載された *M. empelioptera* と近縁である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

7、9月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.

(執筆者: 岸田泰則)



コガタノメイガ

Nacoleia gressitti

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 10～11mm。ノメイガ類では小型の種。両翅は茶褐色。翅頂はやや突出する。後翅の外縁は、中央でやや内側に湾曲する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

7～9月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



©SEHU, Hokkaido Univ.

(執筆: 岸田泰則)

キハダクロオビノメイガ

Pagyda citrinella

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 22mm。両翅は、明るい茶色を帯びた黄色。内、外横線は褐色。後翅の基部は白色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

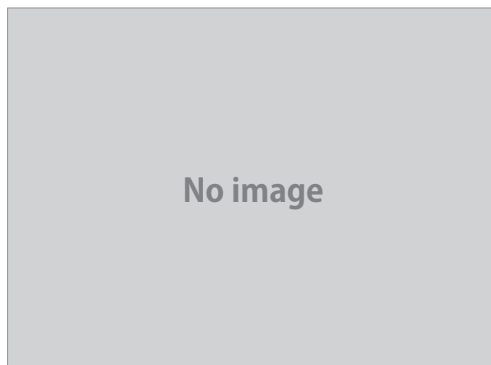
4、7月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラミドリノメイガ

Parotis ogasawarensis

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 35～38mm。ノメイガの仲間では大型。体、両翅ともに明るい緑色の美しいメイガである。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

4～10月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



(執筆: 岸田泰則)

クロシオノメイガ名義タイプ亜種

Erpis pacificalis pacificalis

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 23～26mm。地色は濃い茶褐色。前翅の中室端紋や外横線は明瞭。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

4～10月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



(執筆者: 岸田泰則)

クロシオノメイガ硫黄島亜種

Erpis pacificalis iwojimensis

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 23～26mm。名義タイプ亜種とは、やや地色が淡色で白っぽいこと、斑紋はより明瞭であることで区別できる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

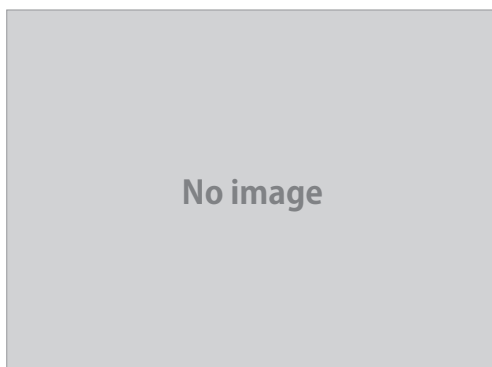
6月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

ロンドン自然史博物館所蔵のタイプシリーズの1♂7♀しか知られていない。記録が少なく生態が不明であるが、草地に生息すると考えられることから、可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



(執筆者: 岸田泰則)

キバネカクモンノメイガ

Rehimena variegata

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 18～23mm。前翅前縁に2個の黄色い紋を有するが、♀ではこの紋が弱い個体もある。♂の翅は♀より黄色味が強い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3～9月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



(執筆者: 岸田泰則)

クロエグリノメイガ

Sufetula minuscula

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 13mm。日本本土からインド・マレー区にかけて広く分布するシロスジエグリメイガ *S. sundidesalis* に似るが、小型で、翅はやや細く、地色も暗いことで区別できる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

9月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラハラナガノメイガ

Tatobotys albivenalis

チョウ目(鱗翅目)
ツトガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 22~28mm。前翅の地色は黒褐色で、内・外横線は薄黄色で目立つ。♂の腹部は細長い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

6、9月に採集されている。草地でのライトトラップで採集されているため、草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

草地環境を好む種と考えられるため、河川の改修や宅地開発などによる生息環境の減少が懸念される。可能な限り草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 岸田泰則)

オオシマモンツヅリガ

Thalamorrhyncha cramboidea

チョウ目(鱗翅目)
メイガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 50~60mm。大型のツヅリガである。両翅ともに灰褐色で、目立つ斑紋はない。後翅前縁は淡色となる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3~6月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1998; 柳田慶浩・中島秀雄, 1999.



(執筆: 岸田泰則)

キバネトガリメイガ

Endotricha pulvrealis

チョウ目(鱗翅目)
メイガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 22 ～ 25mm。前翅は、赤味を帯びた黄褐色。内・外横線は波状。中室端に黒点を有する。後翅の中央に淡色帯がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

ほぼ通年に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1996; Inoue, H., 1998.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラチズモンアオシャク

Agathia ichnospora

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

開張 27 ～ 30mm。両翅ともに淡緑色。両翅に紫赤色の点列を有する。後翅の外縁は直線的で、尾状突起は短い。1年を通して連続的に発生する。幼虫はティカカズラを食べるが、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆: 岸田泰則)

チビサザナミシロアオシャク

Pelagodes ogasawarensis

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島



環境省



【形態・生態】

開張 23 ～ 25mm。両翅ともに青緑色。白色短線は発達する。前翅前縁は淡黄色で、縁毛も淡黄色。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

4 ～ 8 月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラチビナミシャク

Gymnoscelis boninensis

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 17～21mm。前翅は緑色を帯びた淡褐色で、明瞭な太く暗色の横帯を有する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3月と7～8月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆: 岸田泰則)

ウラグロチビナミシャク

Gymnoscelis melaninfra

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 13mm 前後。小型の種で、前翅の色彩は暗く、緑色を帯びない。横線は不明瞭だが、中央部は幅広く暗色になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

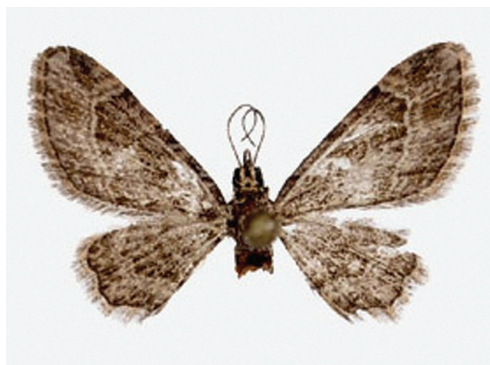
3、7月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島で1980年7月に採集されたホロタイプのものと、2010年3月に採集された数個体の記録しかない。樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Inoue, H., 1994; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆: 岸田泰則)

ウラジロチビナミシャク

Gymnoscelis montgomeryi

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 13～18mm。♂♀で翅型が異なる。♂では、前翅後縁と後翅前縁が丸く突出する。幼虫はムニンセンニンソウ、ムニンヒメツバキの葉を食べるが、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3月と7～8月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆: 岸田泰則)

マルバエダシャク

Boninnadagara crinomorpha

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 30～35mm。♂♀で翅型が異なる。♂の前翅後縁は突出し、後角は丸みを帯び、裏面には大きな白っぽい毛束を持つ。♀は特異な翅型ではない。年2化と推定される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

2～3月と6～8月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



所蔵：神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆者：岸田泰則)

オガサワラフトスジエダシャク

Cleora ogasawarensis

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島 DD

環境省

【形態・生態】

開張 25～35mm。♂の触角は櫛歯状。色彩斑紋の個体変異が著しい。一般に♀は♂より淡色。年数回の発生を繰り返すと推定される。幼虫はウラジロエノキなどを食べるが、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

1～11月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆者：岸田泰則)

カギバエダシャク

Pseudonadagara hepatica

チョウ目(鱗翅目)
シャクガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 22～23mm。翅の地色は黄褐色から赤レンガ色までである。本土に生息するキトビカギバエダシャクに似るが、前翅頂部はあまり尖らないこと、外横線は点列であることで区別できる。多化すると推定されるが、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

2～12月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆者：岸田泰則)

アトキフタオ

Warreniema fumicosta islandica

チョウ目(鱗翅目)
ツバメガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 17mm 前後。本土に生息する名義タイプ亜種とは、斑紋が多型であること、後翅前縁の黄色斑がないことで区別できる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011a.



(執筆: 岸田泰則)

クロタバコガ

Helicoverpa sugii

チョウ目(鱗翅目)
ヤガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 30 ~ 34mm。触角は糸状。前翅は黒色で、後翅も基半部を除き黒色。年 1 ~ 2 回発生すると推定される。幼虫はシママ口を食べることが知られているが、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

1 ~ 6 月と 11 月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011b.



(執筆: 岸田泰則)

ムニンツマキリヨトウ

Callopistria ogasawaraensis

チョウ目(鱗翅目)
ヤガ科

小笠原諸島 NT

環境省 NT

【形態・生態】

開張 28 ~ 30mm。前翅の腎状紋と翅底中央付近が赤褐色を帯びる。外横線は翅底に近いところで白色二重線になる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

3 月に採集されている。樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則(編), 2011b.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラシロガ

Chasmina takakuwai

チョウ目(鱗翅目)
ヤガ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

開張 45 ~ 49mm。雌雄の触角は糸状。前翅は一様に銀灰色で、♂には灰黄色の大きな性標を持つ。後翅は灰黄色で、外方は褐色を帯びる。3 ~ 6 月に出現し、年 2 化と推定される。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則 (編), 2011b.



(執筆: 岸田泰則)

ホラズミクチバ

Speiredonia inoellata

チョウ目(鱗翅目)
ヤガ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

開張 49 ~ 51mm。両翅ともに紫灰色。各横線が波状を呈する。前翅の中央に巴型の紋を有する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

ほぼ通年採集されている。鍾乳洞や塹壕などの洞窟内に多数生息しているのが発見されている。洞窟外での生態は不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

洞窟とその周囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則 (編), 2011b.



(執筆: 岸田泰則)

オガサワラヒゲブトクロアツバ

Nodaria ogasawarensis

チョウ目(鱗翅目)
ヤガ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

開張 26 ~ 30mm。本土に分布するヒゲブトクロアツバに似るが、翅の地色はより明るく、前翅の中央部を中心に黒色鱗を散布する。多化性である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林でのライトトラップで採集されているため、樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

樹林に生息すると考えられるため、開発などによる樹林の伐採が進むと、生息環境の減少が懸念される。可能な限り樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

柳田慶浩・中島秀雄, 1999; 岸田泰則 (編), 2011b.



(執筆: 岸田泰則)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は以下に準拠した。

神保宇嗣, 2004-2008. 日本産蛾類総目録 . <http://listmj.mothprog.com/>

【関連文献】

- Inoue, H., 1994. The Geometridae of the Ogasawara Islands (Lepidoptera) (Moths of Ogasawara (Bonin) Islands, Part II). *Bulletin of Otsuma Women's University Home Economics*, 30: 195-223.
- Inoue, H., 1996. The Pyralidae of the Ogasawara Islands (Lepidoptera) (Moths of Ogasawara (Bonin) Islands, Part III). *Bulletin of Otsuma Women's University Home Economics*, 32: 75-111.
- Inoue, H., 1998. The Zygaenidae, Hyblaeidae, Thyrididae, Limacodidae, Uraniidae, Sphingidae, Arctiidae and Nolinae (Noctuidae) of the Ogasawara Islands, with additions and corrections to the Geometridae and Pyralidae (Lepidoptera): Moths of Ogasawara (Bonin) Islands, Part IV. *Transactions of the Lepidopterological Society of Japan*, 49(4): 271-287.
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 1. 学研教育出版 . 353 pp.
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 2. 学研教育出版 . 417 pp.
- 柳田慶浩・中島秀雄, 1999. 小笠原諸島の蛾・蝶と蛾, 50(2): 63-78.